

全国中国語教育協議会

ニューズレター

第23号

2001年12月20日発行

3月27日(水)に会員総会と報告会の開催を決定(第1面)

中国語教育学会への移行に向け理事会アンケート(第3面)

隔年開催の会員総会を予告通り春休み中に開くことが決まった。全国中国語教育協議会では、これまで会則にしたがい、隔年に全国大会を開催してきた。前号会報で予告したように、準備作業が進み、下記の日程をまとめたので、奮ってご参加を賜りたく、お願い申し上げる次第である。

正式のご案内(プログラム)は2月上旬発行予定の会報(ニューズレター)に掲載し、同時に出席申し込みハガキをお送りするが、日時と場所は確定しているので、会員各位の3月のご予定に組み入れていただきたい。多数のご参加を期待する。

全国中国語教育協議会 第3回全国大会(会員総会・春季報告会)

日時: 2002年3月27日(水)午前・午後

会場: 日本大学文理学部百周年記念講堂内小ホール

(所在地: 東京都世田谷区桜上水、新宿から京王線で約10分、下高井戸または桜上水下車)

大会日程: 10:00 受付開始 10:30 開会式

10:40~12:20 報告会(教室からの実践報告と質疑応答)

報告者 大崎雄二(法政大学)、丸尾誠(名古屋大学)

12:20~13:30 休憩(昼食) この間に理事会を開催

13:30~14:00 講演(詳細は交渉中)

14:10~15:20 会員総会 15:30~ 懇親会

総会議事・報告会レジュメ等は2月上旬発行予定の会報(ニューズレター)に掲載します。

なお、今回の総会において理事あるいは理事会から、本会の中国語教育学会への移行が提案審議され、決定に至った場合は、中国語教育学会の設立大会に切り替えて議事を進めることをお含みください。

また、上記の案件の可否にかかわらず、当日は総会出席者により役員選挙が実施されます。

会費納入について

本会の経費は年度会費2000円と有志の寄付金によっています。年度会費を5年間未納の会員は名簿から削除し、会報の郵送を停止いたします。前年度までの未納分がある方は、今年度の会費に合算してお振り込みください。一層のご協力をお願い申し上げます。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中文研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

なお、お問い合わせ・ご連絡等はお手数でも郵便でお願いいたします。



このレポートでは中国語の教育や研究に関する学会・研究会をはじめ、施設・機関などを紹介しているが、本号では台湾師範大学の華語文教学研究所を取り上げる。6年前に発足したばかりの大学院修士課程で、外国人に対する中国語教育の教授と研究を行っている。

台湾師範大学は、その名に師範の2字をとどめているが、すでに教員養成機関ではなく、一般の大学である。しかし、学科編成には教育関係が目立ち、文理・芸術・体育等、多岐にわたっている。キャンパスが市内にあるため、やや手狭な印象を受けるが、レンガ色に映える教室棟のなかには日本が残したものもあり、なお使用中ではあるが、歴史的な建造物として保護されているという。

台湾師範大学といえば、かつての北京語言学院と同様の機能を果たす国語中心が知られている。外国人に対する中国語教育機関として、これまで日本を含め世界各国から留学生を集めてきた。その国語中心が置かれている、10階建ての新しいビルの最上階に、華語文教学研究所がある。外国人に対する中国語教育のための、教材や教育法の研究と普及、教員の資質向上をはかって、1993年に設立申請を教育部に提出し、95年から修士課程が開設され、台湾で初めての、外国人に対する中国語教育専攻の大学院となったものである。

修業年限は2年間で、修士論文執筆のほか、7週間にわたって合計72時間の教育実習参加が義務づけられる。実習は海外の同様の機関で行ってもよいようである。学部卒業者が入学するコースのほか、2年以上の教授経験を有する現職教員の入るコースもある。外国人学生も受け入れるので、今秋ここを訪れた際は、4人の日本人留学生に会った。外国人の入試科目は、中国語の能力試験、言語学概論(中国語で出題、中国語で解答)、面接で、研究計画と修業後の就職計画、成績表、推薦状、自伝の提出等が求められる。開講科目は必修として華語文教材教法、漢語言語学、漢語語法学の3科目、選択科目は教学法、漢語言語学、一般言語学の3分野からそれぞれ規定の単位数を満たすことになる。

教授陣は、設立時に米国のマサチューセッツ大学東アジア系主任であった鄧守信言語学博士が就任、最近まで所長に任じられていた。また、国語中心の主任であった葉徳明教授(女)もこの研究所に移っている。他に現主任の信世昌教授、女性で曾金金副教授らが名を連ねる。4氏とも米国の大学で学位を取得し、それぞれ言語学の理論あるいは応用面の研究で多数の論文を公けにしている。なんとといっても、鄧守信教授の学界における知名度は高く、また実際に読みごたえのある論文が少なくない。今夏、北京で開かれた対外漢語教学語法の国際シンポジウムにも出席され、会期後は人民大学で特別講義もされている。その他、非常勤講師や開講科目等、台湾師範大学のホームページを開けば、各教授の業績が詳細に紹介されている。HPに登載されているスタッフのなかに、この研究所の助教の女性がいるのだが、興味として爬山、慢跑と並び、賺錢、聊聊股票……とあったのでびっくりした。現地の研究室でいろいろお世話になったが、明るく行動的で、鄧先生いわく、助教が有能で好感のもてる研究室がなにより一番とのこと、その評価通り、好印象をもって帰国した。この人は言語学と無関係で、米国で企業管理の学位をとった経済学の出身であるようだ。訪問をした日は、信教授が英国の短期出張から戻られたとかで、空港から真っすぐ研究所に出て対応してくださったらしい。このように欧米で学位を取得したり、活躍の場をもっている教員がそろっているあたりが、大陸の対外漢語教学との差異であろう(輿水)。

△△理事に対するアンケートの結果報告(2001年11月)▽▽▽

会報22号でご案内のように、本協議会は準備会発足から満5年が経過し、この間セミナーを中心とする活動を展開して来た。事務局では会の一層の発展をはかるため、準備会段階から声のあがっていた中国語教育学会への移行が望ましいと考えている。会員規模と活動項目を拡大し、中国語教育界において意義ある存在となるために移行は極めて自然なことである。学会名義により社会的に認知されるだけでなく、今春からの大学設置基準改正で、大学教員の場合は、教科書・教材の作成、教学研究や実践報告など、教育学会における会員の活動がそのまま教育業績になり得る。

事務局は、この件をまず理事会の審議にかけるため11月に全理事に対しアンケート調査を行った。3月の総会議事とする場合は、一層の意見聴取や、臨時理事会開催による審議も必要である。

以下にアンケートの回答(回収率32%)から、上記の学会移行に関する意見のうち、具体的な提案を要約して掲げる。

☆ぜひ教育学会への移行を。新しい時代の必要。

☆学会への移行は不可欠。可能であれば事前に理事会を開催するなどして、より多くの理事の賛同を得られればよいと思う。理事会の賛同を得られれば、最初の2年間は現理事を再任し、基礎を固めるのがよい。全国的なバランスを考慮して会長が若干名の理事を新たに委嘱する。

☆5年間の活動実績から言って当然の流れ。ただし、日本中国語学会の下部組織になるわけではないので、教育学会として自由に活動していけばいい。将来両方の学会に所属する人もたくさん出るだろう。両学会間のコミュニケーションの問題がある。

☆賛成。事務局を如何に設けるかが課題。

☆現在の日本中国語学会の会員となっている方の意向を重視してほしい。

☆学会へ移行することのメリットが、いまひとつはっきりしない。移行により強化すべき点が増えると思うが、見通しをつけて進みたい。

なお、3月開催の総会の運営についてもご意見をお寄せいただいた分を下記に要約する。

☆学会へ移行するしないにかかわらず、会長には残留してもらい、それを補佐する体制を整えるために理事の改選を。現会長に負担がかかり過ぎている。これらの点を理事会で話し合った上で総会へ。

☆学会への移行を前提にした総会にすべきである。協議会が発展解消するのであれば、今回は通常の選挙でなく、役員候補者名簿を作成し、信任投票(一括)では如何か。ただし、学会が成立すれば2年後には理事長の選挙をすることを明確に。(常任)理事は理事長の委嘱でよい。

☆会長に一任。選挙は人気投票(不信任投票)にならないことを望む。

また、研究報告会の企画についてもご意見があり、事務局では今回の立案に活用させていただいた。

☆一般教養の中国語教育の現状(座談会)、一般教養の中国語教育の目標・内容について(会長講演)。

☆①公開授業。②授業の工夫・アイデア発表会等。

☆教師や研究者ばかりでなく、中国関係のさまざまな分野で活躍している(活躍していた)方々の経験談なども取り入れてはどうか。

☆参加できない会員のために記録の充実を。自宅や学校のPCから学べるHPの開発を。

さらに、事務局への要望として、以下のようなご意見も寄せられた。

☆中国語教育を支援する多くの方の意向を重視してほしい。

☆セミナー等を通じて蓄積された諸々の知識・工夫点等を中国語教育界へフィードバックする形に。

☆会の発展をはかるため、会費を値上げし、事務費・人件費を使えるようにしてください。

2001年度月例セミナーの記録

今年度の月例セミナーは、12月8日開催の分をもって全日程を終了しました。12月は陳文正先生が「我和電腦教学」というテーマで、自作あるいは市販のソフトを実地に見ながらのお話でした。当日のレジュメに記された項目は以下の通りです。

我和電腦教学：从PLATO到e-learning/CAI的威力/外语学习的重要手段--重复/多媒体有助于联想/性能精确能提高效率/及时反馈既是奖罚又是提醒/承认差别,对症下药/学生享受(一定的)“自治”/一些课题/电脑教材需要健全的“两条腿”/课堂的效果还是由掌握教鞭的人来决定/日大艺术学部一年级的中文课--电脑教学不是万能的/难以自拔的现状

◆今年度の月例セミナー記録

実施日	講師とテーマ	参加者数
4月14日(土)	発音・朗読クリニック 東京外国語大学 孫玄齡	10名
5月12日(土)	中国語教育と認知文法 大阪外国語大学 古川 裕	14名
6月 9日(土)	新刊中国語教科書を採点する 日本大学 輿水 優	27名
7月14日(土)	中国語初級文法のガイドライン 日本大学 輿水 優	29名
9月 8日(土)	発音・朗読クリニック 東京外国語大学 孫玄齡	10名
10月13日(土)	中国語教育縦横談 大妻女子大学 高橋 均	23名
11月10日(土)	アメリカにおける中国語教育から 広島修道大学 郭 春貴	16名
12月 8日(土)	私と電腦教学 日本大学芸術学部 陳文正	18名

◎セミナー収支報告
参加費合計
¥333,500
支出合計
¥195,000
(支出内訳)
講師謝金 ¥120,000
講師旅費 ¥70,000
バイト手当 ¥5,000
(注)
謝金辞退
高橋均 陳文正
謝金支払保留
輿水優
正式な報告は年度末
に行います。

なお、今年度は「春のセミナー」として以下の研究会も開催しました。

主題 「なにを、どのように教えるか」

【語法・語彙教育】武信彰(明治大学) 【中国語入門教育】輿水優(日本大学)

／全国中国語教育協議会 会報・研究ファイル 原稿募集／

- ☆ 会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む)
- ③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本(外国語教育の分野で、紹介・書評とも) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。
- 1編1千字以内。ワープロ使用を原則とし、手書きの場合は400字詰め原稿用紙使用。縮切りは特に設けない。採否は事務局一任とし、随時掲載。原稿は返却しません。
- ☆ 《研究ファイル》原稿 会報(ニューズレター)とは別に、とじこみ式の「研究ファイル」を不定期に刊行します。中国語教育に関する主張や論説をお寄せください。字数は400字詰用紙換算20~40枚程度。形式は既刊のファイルをご参照ください。理事数名の審査で採否を決めます。原稿はワープロに限り、紙に印字したものにフロッピーを必ず添付。ファイルの形式はWindowsで作成されたものとし(Mackintoshは不可)、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもののほか、「Chinese Writer」「Nihao Win」「cWnn」「中文起稿」等も受け付けます。